

## すぐキレてしまおう 子供たち

三浦 恵 伸

● やがてこの日本国もアメリカ社会のように、犯罪の低年齢化が訪れるだろう、と言われているが、いよいよ現実化してまいりました。

これも、経済至上主義、及び利己主義（西洋の個人主義とは違う）で突っ走り、戦後アメリカナイズされた五十年間の国民生活の結果でありますが、喜ばしい成果とは言えません。

この数年間の我が国の閉塞感は、国民に「立ち止まって何が大切かよく見極めて進みなさい」という神様の思し召しのように思われま

● よく「三つ子の魂百まで」と言いますが、現代社会はこの大切さをないがしろにしてしまったのではないかと思われま

大方の子供は祝福されて誕生してきたはずなのに、親、家庭、社会、自然等の新生命の環境が、非常に劣悪・不安定で、祝福も三日まで、後はそれどころではない状況にあるようで、三ヶ年が間ねんごろに「養う」という、ゆったりとした感がありません。

せわしく過ぎて学齢期を迎える

と、親の方が、子供自身の知識の

吸収に血眼になっていきます。そこから人としての値打ちの分かれ目と信じているからでしょう。全ての子供が学問で身を立てる訳でもありませんし、学術も一つの特技なのに、全ての子供がそのモノサシで測られて、溢れた子供に失格者のレッテルを貼ってしまうことは、大きな誤りです。

たしかに三ヶ年慈しまれたことは、自分の表層意識にはありません、然ししっかりと、潜在意識（魂）に刻み込まれているのです。その両方が自分であり、どちらかといえ、隠れている方が大きなウエイトを占めているといえます。氷山の一角です（1対6）。

● 芸術の秋には、全国自治体の立派なホールで文化祭が催され、そのなかに油絵も展示されます。

素人のそれとプロの絵を見比べると、生命感の違いが歴然として

います。プロは**美術**を表現する

**術**を熟知しているからなのです。

周りから美を見抜く眼、限られたキャンパスの広さに、対象から発見した美の中の不要物を捨てて再

現し構成（デザイン）する力。沢山の色を微妙に混ぜ合わせて、オリジナルの色を造りだし、自分の見た、画家の心象を二次元に表現する色彩感覚等、持てる力を総動員して美術で生命を吹き込むのですから、優れたプロの絵は、見る

者に感動を与えずにはおきません。永遠に・・・

私の友人の画家は、とても暖かい北国の雪景色を得意としています。私のような素人は、白いキャンパスにいきなり絵の具を塗り付けていきます。底の浅い味気無い駄作に終わるのは必定です。聞くところによると、作家はそれぞれ個性の色で、下地に目的の色を厚く塗りつぶすのだそうです。その上に絵を描いていくと言っています。

● 書道・華道・剣道・等全てが、**道**を踏んで到達する世界であり、私たちが聖徒の道は**仏道**です。

就中、吾祖、日蓮大聖人は、**今法華經と申は、一切衆生を仏になす秘術まします御經なり。**

と、御題目の不思議を述べておられます。

法蓮鈔 九八二

新しい生命はもとより仏子なのですが、その関係を忘れて生まれてきます。故に、赤子が、仏の浄土に自分は生まれて来たのだ」と三子の魂に刻み込んで、大人の社会に出ていくことができれば、少々なことではキレることの無い、忍耐強い（能忍）仏の大人社会が顕現してくる筈です。

全国聖徒の皆様のご家庭で、新

しく誕生してくる子供さんに、どうか、三ヶ年の間、家族揃って

## 南無妙法蓮華經 南無妙法蓮華經

と、心から祝福をして、御題目で下地を塗り込んで戴きたいと存じます。その一大事を国是とする社会を構築しておかなければ、もう日本の未来はありません。

私たちの心からの願い、世界平和・国土安穩は今こそ実現可能な時代が到来した。私の住む、東京から六時間も要する僻地、山田漁港でさえ、毎朝の魚の値段が世界の価格にもろに左右される現代、世界がすっかり狭くなってしまい、人の意識が地球人になった。個人・家庭・地域社会の幸せは、その中に成立する」と、考えられます。

また、七五〇年前、この国の歴史の下地に御題目の慈悲を塗り込んで戴いた御恩を、報じ奉るチャンスだと思えます。

私たち聖徒は、その魂に深く御題目を吹き込まれた同志であり、浄土建設の担い手たることを寿量ご本仏にお誓いした**苦行菩薩**の一分なのです。

日蓮宗聖徒団 機関誌

聖徒タイムス

H10・4・1 発行

誌上法話 掲載文